

# Care & Communication

ケア&コミュニケーション



## DENTAL REPORT

1次予防の段階から  
歯科に通う  
「ヘルスケア文化」の  
構築と定着を目指す

医療法人社団ワンアンドオンリー  
麻生歯科クリニック・  
麻生キッズデンタルパーク 理事長  
麻生 幸男 先生

P07-12



医院名のロゴが目立つ高級感のある受付(2F)



予防歯科フロアの受付と待合室(3F)



先進歯科治療フロアの待合スペース(4F)

# 1次予防の段階から歯科に通う 「ヘルスケア文化」の 構築と定着を目指す

静岡市の「麻生歯科クリニック」は、「静岡市民の口腔内の健康状態を世界一豊かにする」をモットーにしている。予防歯科の定着を目指す奮闘の歴史を伺ってみた。



医療法人社団ワンアンドオンリー  
麻生歯科クリニック・麻生キッズデンタルパーク  
理事長 麻生 幸男 先生

## 治療型から予防型の 歯科医院へ転換

「麻生歯科クリニック」は静岡駅から車で約5分の街中にある。4階建てのビル壁面の看板は、「ASO」の赤い文字にインパクトがあり、遠くからもよく目立つ。

開業は1999年。所在地の近くにあるビルでの診療だった。開業のきっかけを麻生幸男理事長はこう話す。「整形外科が入った医療ビルのワンフロアで歯科医院をやってみないか、という誘いがあり、自分なりの歯科治療に取り組みたいと、開業を決めました。ユニット2台からのスタートでした」

開業後、患者数は順調に伸び、2004年には現在地に移転拡張。2フロアを使い、ユニットも6台に増設した。しかし、麻生理事長の気持ちのなかには、どこかしっくりこないものがあつた。

「主訴を伺って治療し、口腔環境をきれいに整えることで患者さんに満足していただいていたし、役に立っているという気持ちはありました。でも、数年経つと、再治療の患者さんが出てきてしまいます。本当に自分の治療が患者さんのためになっているのか、という疑問がぬくえませんでした」

そんなとき、麻生理事長が目留めたのが、歯科衛生士と患者の関係だった。歯科衛生士に促され、治療後もメンテナンスのために通い続ける患者がいた。

「患者さんと歯科衛生士との信頼関係から、自分に足りないものに気づかされました。当たり前だと思っていた治療型ではなく、予防を重視する歯科がじつは大切なのではないかと感じたのです」

未来が見えるとすぐに挑戦するのが、フットワークが軽い麻生理事長の考え方だ。教科書や参考書を熟読し、自分なりの手法で予防歯科への転換を図るようになっていった。

まず取り組んだのは、チーム医療の体制づくりだ。予防歯科では衛生環境を整え、歯科衛生士のスキルを上げて標準化し、歯科医師と連携しながら、チームとして患者の口腔管理を行うことが重要になる。

「以前からチーム医療の体制はできていたのですが、2006年にISO9001の認証を取得したことが、質を高めるために役立ちました。予防歯科に積極的に取り組むことで、スタッフの自発性が育ち、温かみのある人間関係が深まることも、自分のスタイルに合っていると感じました」

ISO9001の取得によって、それまで漠然と把握していた治療のレベルを客観的に測れるようになった。また、歯科医師や歯科衛生士がリードしていた治療やメンテナンスを、患者の自発性を育てながら進める方向に推進する力にもなった。

「組織的に治療と予防に取り組むことで、計画、実行、評価、改善というPDCAサイクルを高速で回せるようになり、医療機能が格段に向上したのがわかりました。ス

## 麻生歯科クリニック

## 2F 総合歯科フロア



テーマカラーの赤が印象的な治療用チェア



充実した設備のオペ室



オペ室と滅菌・消毒室の間に設置されたバスルーの滅菌保管庫

トップが自分で目標を持ち、考え、医療に取り組むという『院長がいなくても回る歯科医院』が目に見える形でできあがっていったのです」

### スカンジナビアの 歯科哲学に感銘を受ける

この頃、もう一つ参考になったのは、山形県の日吉歯科診療所の勉強会に参加したことだ。麻生理事長と勤務医、歯科衛生士たちがチームを組み、予防歯科の成功例を直に学んでいった。

「とくに参考になったのは、歯科医院全体の総合力をどう上げるか、ということでした。5Sの徹底やデータの活用、メンテナンスの技術・知識の標準化など、スキームについて、学ぶべき点は多かったと思います」

そして、麻生理事長は、診断力の精度を上げるため、スカンジナビアの歯科学へ目を向けるようになった。

予防歯科への取り組みが深まれば深まるほど、どのような背景を持つ患者なのか、疾患や治療、予後に対する診断力の重要性を認識していたからだ。

「日吉歯科診療所の海外研修に行っていた頃から、スカンジナビアの歯科学をもっと深く勉強したいという思いがありました。知識と技術だけでなく、なぜその治療・予防が必要なのか、スカンジナビアの歯科学には深い哲学があります。その哲学を学ぶことが、診断力の向上につながると思ったのです」

麻生理事長は、スウェーデンのイエテボリ大学公認の歯周病専門医でもある東京国際歯科六本木の宮下裕志先生の門を叩いた。そして、「麻生歯科クリニック」で働く歯科衛生士たち全員と一緒に宮下先生のスタディグループ「EPSDC」コースで7年ほど学び続けたという。「麻生歯科クリニック」が予防歯科への転換を図った直後は、患者数が減った時期もあった。しかし、その後はV字回復。現在は、1日100～120人の来院数があり、80%が予防の患者だ。

## 3F 予防歯科フロア



マイクロスコープを備えた予防用チェア

「治療型から予防型への転換は時間がかかります。私の歯科医院も3年ほどかかりました。でも、患者さんが減ったのではなく、自分たちのレベルが上がったと考えるようにしました。今は万全の医療体制で患者さんを迎えていると胸を張ることができます。ロングタームで何が自分たちの歯科医療に必要なのかを考えることは、とても大切だと思います」

### 治療の幅も広げる 初診時からの徹底した予防ケア

現在、「麻生歯科クリニック」では、「静岡市民の口腔内の健康状態を世界一豊かにする」とことと「日本のデンタルケアを変える」ことをモットーに、日々の診療にあたっている。

4階建ての建物は、1階が入り口とサニタリールームになり、エレベーターも完備されている。2階は一般歯科とインプラント、矯正治療などを行う「総合歯科」、3

## 4F 先進歯科診療フロア



先進歯科診療用のチェアにはフラットタイプも

階はブラッシング指導やPMTCなどを行う「予防歯科」、4階はセラミック治療やインビザライン3D矯正などの「先進歯科診療」のフロアだ。

ユニットは20台あり、すべてが完全個室だ。治療の相談はカウンセリングルームで対応することもある。

初診の患者は、まず受付で問診票を記入し、診療室に入ってから、歯科衛生士と日頃、気になっている歯の悩みを話し合う。唾液検査や口腔内の写真撮影、レントゲン撮影などの検査を受けたあと、歯科衛生士がマイクロスコープを使いながら、虫歯や歯周病の状態を1本1本チェックしていく。このとき、必要に応じてスキャナーを使って3D画像を撮影することもある。

その後、歯科医師が歯科衛生士の報告を受けながら、口腔内をチェックし、診断・分析していくが、場合によっては応急処置を行うこともある。そして、カウンセリングルームで今後の治療計画を立て、次の予約を取るという流れだ。

じっくりと患者に向き合うため、初診の予約時間は、90～120分ほど。ホームページでも動画を使いなが

## 麻生キッズデンタルパーク



カラフルで楽しげな診療室



保育園のような外観



通路や内観の工夫が子どもの探究心を刺激



スタッフのみなさん

ら、初診のプロセスをわかりやすく紹介している。「麻生歯科クリニック」で印象的なのは、歯科衛生士や受付などのスタッフが、明るい笑顔で接遇していることだ。高齢者にも診療室を出たあとまでしっかりと付き添い、安心して通院できる心配りが行き届いている。「PMTCなどのメンテナンスによって2次予防がしっかりしてくると、治療の選択の幅が広がります。患者さんの期待に応えるには、CAD/CAM、インプラント、インビザライン3D矯正と、知識と技術、環境の進化が欠かせません。そのため、院内は2年に1回はリニューアルしています。患者さんの健康を守り続けると約束し、実行していくこと。それが歯科医院に課せられた社会資

産の構築につながりますし、ブランドとして認められることになると考えています」

### 子どもの目線と教育の視点を 取り入れた小児歯科専門施設

「麻生歯科クリニック」は、妊娠中から子どもの歯を守る1次予防にも力を入れている。きっかけになったのは、麻生理事長が予防の聖地スウェーデンのカルスタッドへ海外研修に行ったときの体験だった。「現地の先生に『本当にカルスタッドと同じように日

本でもできるの?』と挑戦的に言われたのです。カチンときましたね。でも、カルスタッドのデータを見て驚きました。予防のため、地域の保険センターに通う層でもっとも多いのが10歳以下の子どもたち。80%に達していました。日本とは保険制度が違いますから、一概には比べられませんが、虫歯ができてから行くのではなく、歯を失わないために歯科に行く意識と環境が徹底している。日本も負けずに、同様の文化を根づかせる必要があると痛感しました」

この経験が、「麻生歯科クリニック」の別院である「麻生キッズデンタルパーク」の設立につながった。2009年、「麻生歯科クリニック」から車で7分ほどの距離に作られた「麻生キッズデンタルパーク」は、保育園のような外観の2階建ての建物になっている。

なかに入ると驚くのは、カラフルでテーマパークのような構造になっていること。受付までの通路には、歯磨きの大切さが動画でも学べるビデオルームがあり、受付前には、ボックス型のスペースを設置。子どもたちが遊びながら、自然と予防歯科の情報に触れる工夫をあらゆる場所に凝らしている。

「小児歯科では子どもの目線で考え、やる気を起こさせる心理的な工夫が欠かせません。保護者の教育も必要です。子どもの目線と教育という2つの視点を取り入れたのが、『麻生キッズデンタルパーク』なのです」

同院でもっとも広いのは、受付までの待合室のスペース。教育のコミュニティスペースとしての役目も果たしている。受付の正面奥にある部屋では、音楽と触れ合いながら学ぶリズムの考えを取り入れた歯磨きレッスンなどが開かれる。早期から歯科との接点を作ることで、通院へのハードルを下げる狙いがある。

先生役を務めるのは、小児歯科に熱意を持つ歯科衛生士たち。そのなかには、保育士や管理栄養士の資格を持つ人もいる。

「3歳までは『ハニークラブ』の一員になり、月1回、小グループを時間で区切って来院してもらい、歯磨きと歯

科医院に慣れてもらうクラスがあります。遊びやゲームの要素を取り入れながら、歯ブラシを口に入れたり、お母さんの仕上げ磨きに慣れるレッスンを経て、診療室に行進しながら入っていきます。そして、診療台で歯科衛生士に仕上げ磨きをしてもらう。行動を習慣づけることで、予防の大切さを親子で学んでもらっています。必要がなければ、基本的に治療はしません」

「ハニークラブ」の利点は、子どもたちが仲間意識を持つことだ。よりいっそう歯磨きへの関心が高まる。そして、3歳以上になると、子どもたちは1人でも怖がらずに診療室でメンテナンスや治療を受けることができる。同じような子どもがたくさんいるため通いやすい環境なのだ。「麻生キッズデンタルパーク」は口コミで地域に広がり、新規の申し込みは6か月待ち。この2年ほどは新型コロナの影響で来院数を抑えているが、コロナ前は、「ハニークラブ」が開催される土曜日には120人もの来院数があった。「病気にはそれぞれの時代に潜む問題が現れてきます。今は口腔機能不全に対処できる予防歯科がさらに重視される時代になりました。幸い日本の早期口腔管理保険制度は世界最先端です。私の歯科医院だけでなく、多くの歯科医師が力を合わせれば、日本にも個別の1次予防を大切にヘルスケアの文化が根づいていきます。私が今、力を入れているのは、その文化の構築。スウェーデンのカルスタッドに負けなくらい、本来の予防歯科のもつ社会的価値を創造していきたいです。」



麻生幸男理事長とスタッフのみなさん

## PROFILE

## 麻生 幸男 先生

- 1996年 明海大学歯学部卒業。明海大学病院口腔診断学講座入局
- 1999年 麻生歯科クリニック開業
- 2004年 現在地に移転拡張
- 2006年 ISO9001認証取得。医療法人社団ワンアンドオンリー設立。理事長に就任
- 2007年 3階予防歯科フロアをオープン
- 2009年 麻生キッズデンタルパーク開業
- 2017年 院内技工所設立
- 日本口腔インプラント学会専門医
- 明海大学臨床講師
- 日本歯科大学 臨床講師
- 昭和大学歯学部 歯科矯正学講座 研究生
- 日本歯科先端技術研究所会員

医療法人社団ワンアンドオンリー

麻生歯科クリニック

住所：静岡県静岡市葵区春日2-12-5 A.S.Oビル TEL:0120-64-8297 HP:https://www.aso-shika.com/

麻生キッズデンタルパーク

住所：静岡県静岡市駿河区栗原15-16 TEL:054-655-2525 HP:http://www.aso-kidsdental.com/